

令和7年度事業報告

定款第39条（事業報告及び決算）に基づき、
本会の令和7年度の事業報告を行うものである。

1. 会員現況

2. 組織及び業務の分担概要

3. 会議等の概要

(1) 総会、(2) 理事会、(3) 顧問・評議員会、(4) 各種委員会

4. 運営・広報事業の概要

5. 国際関係事業の概要

6. 催物事業の概要

7. 調査研究事業の概要

8. 設立50周年記念事業の実施概要

9. JTA表彰の選考概要

10. 研究助成の選考概要

令和7年度事業報告

令和7年度は、会員のニーズ等に基づき、トンネル技術者にとって必要と考えられる各種の事業を積極的に実施した。

運営・広報事業では、本会の活動指針である「JTA ビジョン」を踏まえ、関連諸事業の実施等に努めた。会員のニーズを踏まえ、会員限定情報の充実に努めるとともに、メールマガジン等によりイベント情報等の積極的な発信に努めた。また、委員会活動成果としての図書を広く頒布した。

国際関係事業では、ITA活動等への参加などを通じて、トンネル技術に関する各国の情報収集、わが国からの情報発信及び国際協力に努めた。

催物事業では、当面する技術課題を踏まえた各種催物を企画し、トンネル関係者の実務上有益な知識の向上を図った。

設立50周年記念事業では、「社会を支え、未来へつなぐトンネル・地下空間」をメインテーマとして、記念事業を実施した。

調査研究事業では、技術委員会の下で、トンネルや地下空間の建設および維持管理に関する当面の課題や会員からのニーズに応えるよう実施した。受託業務においては、学識経験者からなる委員会において審議し、委託者の期待に応えるよう実施した。

1. 会員現況

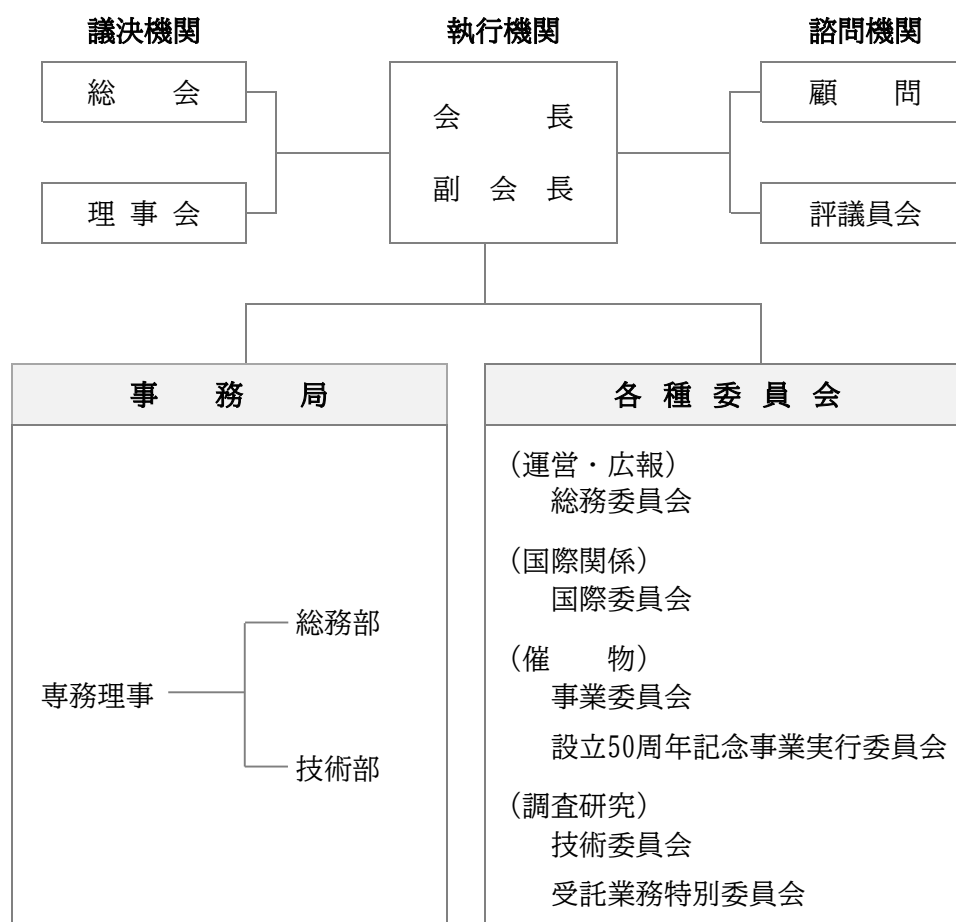
1985年（昭和60年）以降2026年（令和8年）3月までの会員現況の推移は、下表のとおりである。

会員数（名）

年 月 会員種別	1985.3	1995.3	2005.3	2015.3	2020.3	2025.3	増	減	2026.3
正会員	2,098	1,901	2,054	1,286	1,236	1,180	117	-125	1172
団体会員	228	282	359	202	203	201	1	-6	196
特級	3	3	3	1	1	1	0	0	1
特A級	-	28	24	23	23	23	0	0	23
A級	34	9	12	5	5	5	0	0	5
B級	16	20	16	10	10	10	0	0	10
C級	30	30	21	15	15	15	0	0	15
D級	145	192	283	148	149	147	1	-6	142
個人会員	1,870	1,619	1,695	1,084	1,033	979	116	-119	976
一般会員	-	-	-	866	813	753	63	-69	747
推薦会員	-	-	-	206	206	211	48	-44	215
特別会員	-	-	-	12	7	11	5	-5	11
名誉会員	-	-	-	0	7	4	0	-1	3
学生会員	-	-	-	-	-	6	0	-2	4
賛助会員	-	-	-	169	205	226	47	-47	226
計	2,098	1,901	2,054	1,455	1,441	1,412	164	-174	1402

摘 要：1986年 特A級会員を設置、2007年 作業所単位会員を設置、2013年 作業所単位会員を廃止・賛助会員を設置、2020年 学生会員を設置

2. 組織及び業務の分担概要



(1) 議決機関

- 1) 総会を6月に開催し、協会の運営上重要な事項を、また、理事会を5回開催し、会務の執行に関する事項を審議した。なお、理事、監事の名簿は別表のとおりである(4頁参照)。

(2) 執行機関

- 1) 会長は会務を統括し、副会長は会長を補佐した。
- 2) 事務局では、専務理事が常勤し、会長及び副会長を補佐して会務を処理した。
- 3) 各種委員会については、4つの常設委員会において会務を分担した。また、設立50周年記念事業実行委員会を設けて活動した。受託(請負等)業務については、10の特別委員会・検討会を設け、業務を実施した。

(3) 諮問機関

- 1) 顧問・評議員会を5月と11月に開催し、会長の諮問に応じた。なお、顧問・評議員の名簿は別表のとおりである(4頁参照)。

一般社団法人日本トンネル技術協会
理事・監事・顧問・評議員名簿

令和8年3月末現在

(敬称略)

区分	氏名	所属	区分	氏名	所属
会長	菊川 滋	(一財)橋梁調査会	顧問	小森 博	
副会長	長谷川雅彦	(独)鉄道・運輸機構	//	谷口 博昭	いであ(株)
//	押味 至一	(一社)日本建設業連合会	評議員	福井 勝則	東京大学
専務理事	時政 宏	(一社)日本トンネル技術協会	//	松尾 誠	(独)水資源機構
理事	千田 洋一	東日本高速道路(株)	//	山本 悟司	(一社)日本建設業連合会
//	今井 清裕	本州四国連絡高速道路(株)	//	真下 英人	(一社)日本建設機械施工協会
//	谷田 豊	阪神高速道路(株)	//	村田 啓	中日本高速道路(株)
//	井料 青海	東日本旅客鉄道(株)	//	永田 順宏	西日本高速道路(株)
//	田畑 宏司	(株)電源開発	//	住吉 英勝	首都高速道路(株)
//	家壽田昌司	東京都下水道局	//	大石 敬司	東京地下鉄(株)
//	杉山 和久	(株)大林組	//	坂口 淳一	東京都交通局
//	湯山 和利	(株)奥村組	//	森口 敏美	鹿島建設(株)
//	川崎 茂信	五洋建設(株)	//	岡市 光司	(株)熊谷組
(//)	谷口 慎一	佐藤工業(株)	//	深沢 成年	(株)鴻池組
//	白川 賢志	大成建設(株)	//	宮田 和	清水建設(株)
//	後藤 良平	東亜建設工業(株)	//	川崎 哲人	(株)竹中土木
//	岩井 健	東急建設(株)	//	大場 秀彦	鉄建建設(株)
//	吉田 篤史	(株)フジタ	//	館下 章	東洋建設(株)
//	山崎 政俊	(株)不動テトラ	//	篠原 賢至	戸田建設(株)
監事	竹津 英二	(独)鉄道・運輸機構	//	津田 眞典	日本国土開発(株)
//	築地 功	飛島建設(株)	//	宮川隆太郎	(株)安藤・間
//	石井 正典	西松建設(株)	//	東福 忠彦	前田建設工業(株)
			//	吉田 新吾	三井住友建設(株)
			//	田野慎一郎	青木あすなろ建設(株)
			//	福武 栄一	(株)大本組
			//	鈴木 明	(株)銭高組
			//	高木 健二	大豊建設(株)
			//	八木 省悟	若築建設(株)
			//	杉山 雅彦	JIMテクノロジー(株)
			//	入江 健二	事業委員長(メトロ開発(株))
			//	西村 和夫	技術委員長(東京都立大学)
			//	今井 智満	国際委員長(中日本高速道路(株))
			//	砂金 伸治	ITA 理事(東京都立大学)

役員構成：会長1名、副会長2名、専務理事1名、
理事15名、監事3名(役員計22名)
顧問2名、評議員31名

3. 会議等の概要

(1) 令和7年度定時総会

日 時： 令和7年6月9日（月）16：15～17：00

場 所： 都市センターホテル 3階 コスモスホール

出席者： 出席社員 社員総員1,172名中 884名（75%）

出席137名、書面による議決権行使55名（全ての議案に賛成）、
委任状692名

出席役員 理事：菊川滋、長谷川雅彦、永田順宏、加古聡一郎、堀口知己、
宮田和、白川賢志、深沢成年、川崎茂信、大場秀彦、後藤良平、曾
根浩、平喜彦、時政宏 以上14名

監事：齊藤誠、築地功 以上2名

（総会の成立）

時政宏専務理事が上記出席者を報告し、総会が成立した旨を告げるとともに、社員に対して総会の模様をインターネット配信していることを報告した。

（議長選出）

定款第15条の規定により、総会の議長を菊川滋会長にお願いし、菊川滋会長から挨拶があった。

（議事録署名者）

議長から、定款第19条第2項の規定により、総会議事録の署名人として、議長の他、出席社員の田畑宏司氏、宮田和氏にお願いしたい旨を諮ったところ、全員異議がなく了承、選出された。

（議 事）

菊川議長は、議案の議事に入る旨、宣した後、

- 1) 第1号議案（報告事項）令和6年度事業報告
- 2) 第2号議案（審議事項）令和6年度事業収支決算

上記2件を一括して上程することとし、事務局の説明を求めた。

先の理事会で承認された令和6年度事業報告について、会員現況、組織及び業務の分担概要、会議等の概要、各種委員会の活動状況（運営・広報事業、国際関係事業、催物事業、調査研究事業、設立50周年記念事業）、表彰の選考概要、及び研究助成の選考概要の説明があった。

引き続き、定款第39条の規定に基づき定時総会の審議事項である令和6年度事業収支決算について、9種類の財務諸表等のうち正味財産増減計算書を用いて説明があった。経常収益は296,519千円、経常費用は284,578千円の決算となり、当期一般正味財産額は11,021千円の増額で、一般正味財産残高は期首278,139千円から期末289,160千円に増額

となった旨の説明があった。

引き続き、築地功監事から監査結果の報告があった。

菊川議長が第1号議案について質問を求めたところ発言がなく、了承された。

次に、菊川議長が第2号議案について質問を求めたところ発言がなく、採決した結果、異議がなく、原案どおり承認された。

3) 第3号議案（報告事項）令和7年度事業計画

4) 第4号議案（報告事項）令和7年度事業収支予算

次に菊川議長は、上記2件について一括して上程することとし、事務局の説明を求めた。

先の理事会で承認された令和7年度事業計画について、運営・広報事業、国際関係事業、催物事業、設立50周年記念事業及び調査研究事業の概要の説明があった。

引き続き、先の理事会で承認された令和7年度事業収支予算について、損益ベースの会計予算書により説明があった。経常収益は前年度予算から1,660千円減額の243,150千円、経常費用は前年度予算から22,134千円増額の273,764千円とし、設立50周年記念事業や国際関係特別活動等を実施するために増額予算とした旨の説明があった。

菊川議長が第3号議案及び第4号議案について質問を求めたところ、発言がなく、了承された。

5) 第5号議案（審議事項）理事及び監事の選任

菊川議長は、上記の件について事務局の説明を求めた。

定款第12条第2号及び第21条第1項の規定により、理事及び監事の選任を諮るものであり、本総会終了を以って任期満了となる理事の菊川滋氏、長谷川雅彦氏、押味至一氏、永田順宏氏、加古聡一郎氏、堀口知巳氏、大石敬司氏、大場秀彦氏、平喜彦氏の9名、監事の齊藤誠氏、清原啓太氏の2名、及び辞任の申し出があった理事の藤橋知一氏、深沢成年氏、宮田和氏、曾根浩氏の4名に対し、先の理事会で推薦された理事13名及び監事2名の候補者の紹介があった。

菊川議長が第5号議案について質問を求めたところ発言がなく、推薦された候補者を一名ずつ諮った結果、それぞれ異議がなく、下記のとおり選任が承認された。

再任の理事：菊川滋氏、長谷川雅彦氏、押味至一氏

新任の理事：千田洋一氏、谷田豊氏、井料青海氏、田畑宏司氏、家壽田昌司氏、
杉山和久氏、湯山和利氏、宮澤竹久氏、岩井健氏、山崎政俊氏

新任の監事：竹津英二氏、石井正典氏

（その他）

事務局から令和7年度事業を実施するにあたり、先の理事会で承認された常設委員会の

委員長の紹介があった。総務委員会委員長は理事の千田洋一氏、国際委員会委員長は評議員の今井智満氏、事業委員会委員長は評議員の入江健二氏、技術委員会委員長は評議員の西村和夫氏、設立 50 周年記念事業実行委員会委員長は理事の千田洋一氏であり、総務委員会委員長は新任で、その他は留任である。

また、菊川会長から、令和 7 年度功績賞 1 名及び令和 6 年度施工体験発表会の最優秀賞 2 名を表彰した。

(閉 会)

以上をもって本日の議事が終了したので、菊川議長は閉会を宣した。

(2) 理 事 会

令和 7 年度第 1 回 理事会

令和 7 年 5 月 16 日 (金) 開催 理事 12 名、監事 1 名 計 13 名出席

①令和 7 年度の役員選任

- ・理事、監事、及び評議員の選任
- ・特別会員の推薦

②常設委員会委員長の選任

③令和 7 年度定時総会議案

令和 7 年度第 2 回 理事会

令和 7 年 6 月 9 日 (月) 開催 理事 14 名、監事 2 名 計 16 名出席
報告事項のみ

令和 7 年度第 3 回 理事会

令和 7 年 6 月 9 日 (月) 開催 理事 14 名、監事 3 名 計 17 名出席

①会長、副会長の選定

令和 7 年度第 4 回 理事会

令和 7 年 11 月 13 日 (木) 開催 理事 14 名、監事 3 名 計 17 名出席

①評議員の交替

評議員辞任：牟田 広繁 評議員選任：村田 啓

②特別会員の推薦

③令和 8 年度定時総会開催日の選定

④規程等の改定 (表彰規程、名誉会員の推薦に関する内規)

⑤JTA 表彰 (令和 8 年度表彰) の募集

令和7年度第5回 理事会

令和8年3月5日（木）開催 理事14名、監事3名、その他1名 計18名出席

①評議員の交替等

評議員辞任：大野 昌仁 評議員選任：山本 悟司

評議員辞任：田中 宏征

②JTA表彰（令和8年度）の受賞者の決定

③令和8年度理事、監事、評議員の構成

④令和8年度定時総会議案要綱

(3) 顧問・評議員会

令和7年度第1回顧問・評議員会 令和7年5月16日（金）開催

顧問1名、評議員21名、その他2名 計24名出席

①令和7年度定時総会議案

令和7年度第2回顧問・評議員会 令和7年11月13日（木）開催

顧問1名、評議員20名、その他1名 計22名出席

①令和7年度上半期の事業活動及び収支現況

②設立50周年記念事業の実施状況

③研究助成（令和8年交付）の募集

④JTAビジョン関連事業の進捗状況

(4) 各種委員会（令和7年度開催状況）

委員会名	構成人数(人)	開催回数(回)	出席人数(人)	委員会名	構成人数(人)	開催回数(回)	出席人数(人)
1 総務委員会				6 北海道新幹線、新函館北斗・札幌間施工技術委員会			
委員会	15	3	38	委員会	60	2	155
企画運営幹事会	9	2	17	幹事会	50	2	48
広報小委員会	6	2	19	幹事会定例検討会	10	-	-
会誌WG	14	12	144	機械化施工小委員会	38	5	252
ホームページWG	5	2	-	7 中央アルプストンネル施工技術委員会			
2 国際委員会				委員会	27	1	63
委員会	16	-	-	シールド小委員会	11	1	20
ITA小委員会	14	5	112	ワーキング	15	-	-
技術統括WG	15	4	-	8 効率的点検特別委員会	36	3	86
国際広報WG	9	3	21	9 盤ぶくれ対策特別委員会	32	6	223
ヤングメンバーWG	22	3	38	10 改築設計施工技術特別検討会	20	2	47
海外情報小委員会	7	-	-	11 シールドトンネル設計施工特別委員会	25	4	97
海外文献WG	22	-	-	12 矢上川地下調整池施工技術検討会	14	2	39
ニュースWG	9	12	91	13 7号線品川～白金高輪間大深度地下使用に関する検討委員会	13	1	20
対外広報WG	14	-	-	14 西武鉄道新宿線連続立体交差事業技術特別委員会	15	1	32
3 事業委員会				15 相模鉄道本線連続立体交差事業トンネル施工検討委員会	22	2	59
委員会	19	5	85	合計	844	141	2,419
トンネルの日WG	4	2	11				
4 設立50周年記念事業実行委員会							
委員会	20	2	44				
幹事会	15	-	-				
催物企画等WG	8	2	23				
作品展示等WG	11	3	44				
映像・記念史等WG	12	-	-				
5 技術委員会							
委員会	15	1	18				
共通技術小委員会	15	-	-				
資機材検索リスト運営WG	6	-	-				
山岳工法小委員会	20	1	19				
支保WG	27	5	115				
地山評価WG	20	5	87				
都市トンネル小委員会	19	1	17				
新技術WG	4	-	-				
改善WG	16	7	77				
安全環境小委員会	20	1	22				
肌落ち災害防止対策WG	7	6	48				
自然由来重金属対策WG	5	-	-				
保守管理小委員会	16	3	51				
技術変遷史編集小委員会	9	2	39				
山岳工法編集WG	13	10	55				
シールド工法編集WG	14	5	43				

(注1) リモート会議等を含む。
(注2) 出席人数を「-」で表記しているWG等の出席人数は上位の委員会等に含まれるものもある。

委員会数と構成員延べ人数

区分	委員会	小委員会 幹事会	WG等	計	延べ 人数
常設	5	11	21	37	456
特別	10	5	0	15	388
計	15	16	21	52	844

令和7年度各種委員会名簿

注:敬称略、()は前任者

1. 総務委員会

委員長 千田 洋一
副委員長 岡市 光司
委員 奥田 晃久
委員 北出 徹也
委員 澤田 和也
委員 住吉 英勝
委員 井料 青海
委員 大石 敬司
委員 坂口 淳一
委員 杉山 和久
委員 森口 敏美
委員 宮田 和
委員 白川 賢志
委員 川崎 哲人
委員 大場 秀彦

1.1 企画運営幹事会

幹事長 澤田 和也
副幹事長 山岸 隆史
幹事 内田 雅洋
幹事 大津 敏郎
幹事 吉井 恭一朗
(幹事) (小泉 秀之)
幹事 鈴木 章悦
幹事 友野 雄士
幹事 平井 卓
幹事 内藤 将史

1.2 広報小委員会

委員長 三浦 孝智
委員 木村 宏
委員 野城 一栄
委員 花輪 高史
委員 河越 勝
委員 須藤 敏明

1.2.1 会誌WG

主査 木村 宏
幹事 古川 慎治
幹事 土井 充
幹事 小林 康範
幹事 佐久間 穰
幹事 谷口 信博
幹事 山岸 隆史
幹事 西川 泰司

幹事 友野 雄士
幹事 平井 卓
幹事 久多 羅木吉治
幹事 山田 博
(幹事) (森 正彦)
幹事 今井 崇満
協力者 山本 育徳

1.2.2 ホームページWG

主査 須藤 敏明
幹事 木野村有亮
幹事 青柳 隆浩
幹事 安藤 拓
幹事 平井 卓

2. 国際委員会

委員長 今井 智満
委員 八尾 光洋
委員 福井 勝則
委員 砂金 伸治
委員 日下 敦
委員 清水 健志
委員 鹿野島秀行
委員 白鳥 明
委員 後藤 隆之
委員 青柳 隆浩
委員 平野 宏幸
委員 谷 卓也
委員 木谷 努
委員 出本 剛史
顧問 石田 積
顧問 福本 勝司

2.1 ITA小委員会

委員長 砂金 伸治
委員 河田 皓介
委員 日下 敦
委員 吉川 直孝
委員 外山 真
委員 山田伝一郎
委員 真下 英人
委員 西森 昭博
委員 岩野 圭太
委員 淡路 動太
委員 谷 卓也
委員 小松原 涉

幹事 富田 哲平
幹事 石村 利明

2.1.1 技術統括WG

主査 吉川 直孝
幹事 満尾 淳
幹事 小泉 悠
幹事 今岡 洋輔
幹事 秋山 崇裕
幹事 新宮 康之
幹事 中谷 匡志
幹事 大森 禎敏
幹事 濱崎 尚
幹事 辻川 泰人
幹事 小出 孝明
幹事 千葉 俊也
幹事 江口 康則
幹事 能登 和幸
幹事 上村 城司

2.1.2 国際広報WG

主査 河田 皓介
副主査 小松原 涉
幹事 北村 義宜
幹事 長田 翔平
幹事 翟 思敏
幹事 富田 哲平
幹事 石村 利明
幹事 水野 博貴
幹事 齋藤 賢吾

2.1.3 ヤングメンバーWG

主査 岡崎 泰幸
顧問 河田 皓介
副主査 秋山 崇裕
副主査 松山 彰宏
顧問 小松原 涉
幹事 菊地 浩貴
幹事 塩梅 恭平
幹事 酒井 大輔
幹事 辰巳 鴻介
幹事 森崎 亮太
幹事 近藤 健太
幹事 翟 思敏
幹事 邊見 涼
幹事 長田 翔平

幹事 藤井 貴裕
 幹事 木村洋太郎
 幹事 石破 和弥
 幹事 千葉 俊也
 幹事 田村 賢人
 幹事 大津 英介
 幹事 水野 博貴
 幹事 齋藤 賢吾

2.2 海外情報小委員会

委員長 福井 勝則
 委員 清水 健志
 委員 日下 敦
 委員 堀口 陽子
 委員 橋口 弘明
 委員 秋好 賢治
 委員 横尾 敦

2.2.1 海外文献WG

主査 福井 勝則
 幹事 日下 敦
 幹事 萩原 秀樹
 幹事 石原 陽介
 委員 橋口 弘明
 幹事 堀口 陽子
 幹事 岡 滋晃
 幹事 仲山 貴司
 幹事 山下 健司
 幹事 今泉 和俊
 幹事 藤原 浩一
 幹事 尾畑 洋
 幹事 一ノ宮俊明
 幹事 瀬谷 正巳
 幹事 谷 卓也
 幹事 畑生 浩司
 幹事 満尾 淳
 幹事 中山 卓人
 幹事 米田 新
 幹事 野間 達也
 幹事 久慈 雅栄

2.2.2 ニュースWG

主査 清水 健志
 幹事 亀山 敦史
 幹事 河田 皓介
 幹事 外川 悠登
 幹事 植野 雄貴

幹事 本合 弘樹
 幹事 篠原 慶二
 幹事 戸崎 雅之
 幹事 笹田 俊之

2.2.3 対外広報WG

主査 清水 健志
 幹事 一木慎太郎
 幹事 吉開 亮一
 幹事 小泉 悠
 幹事 佐々木翔太
 幹事 増田 弘明
 幹事 吉田 祥二
 幹事 中村 真二
 幹事 秋好 賢治
 幹事 池田 廉
 幹事 尾畑 洋
 幹事 山田 宣彦
 幹事 谷 卓也
 幹事 淡路 動太

3. 事業委員会

委員長 入江 健二
 委員 古川 慎治
 委員 佐原 圭介
 委員 小林 康範
 委員 坂田 聡
 委員 石井 聡
 委員 清水 孝之
 委員 河邊 信之
 委員 西浦 秀明
 委員 岡村 正典
 委員 山岸 隆史
 委員 河越 勝
 委員 平野 宏幸
 委員 友野 雄士
 委員 中原 法久
 委員 久多羅木吉治
 委員 内藤 将史
 委員 熊谷 幸樹
 委員 安田 茂人

3.1.1 トンネルの日WG

主査 石井 聡
 委員 岡村 正典
 委員 山岸 隆史
 委員 河越 勝

4. 設立50周年記念実行委員会

委員長 千田 洋一
 副委員長 佐原 圭介
 副委員長 久多羅木吉治
 顧問 入江 健二
 顧問 西村 和夫
 顧問 今井 智満
 委員 古川 慎治
 委員 大山 裕司
 委員 東 好宣
 委員 白鳥 明
 委員 大澤 裕之
 委員 坂田 聡
 委員 石井 聡
 委員 清水 孝之
 委員 岡 滋晃
 委員 西浦 秀明
 委員 山岸 隆史
 委員 秦 健二
 委員 友野 雄士
 幹事 大津 敏郎

4.1 設立50周年記念実行委員会幹事会

幹事長 佐原 圭介
 副幹事長 石井 聡
 副幹事長 清水 孝之
 副幹事長 坂田 聡
 幹事 日下 敦
 幹事 吉川 直孝
 幹事 鈴木 和也
 幹事 増田 弘明
 幹事 岡 滋晃
 幹事 岡村 正典
 幹事 山岸 隆史
 幹事 河越 勝
 幹事 秦 健二
 幹事 中原 法久
 幹事 安田 茂人

4.1.1 催物企画等WG

主査 清水 孝之
 副主査 山岸 隆史
 副主査 河越 勝
 委員 林田 恵夢
 委員 増田 弘明
 委員 藤岡 大輔
 委員 鈴木 光嘉

委員 井上 正広
(委員) (大野 義範)

4.1.2 作品展示等WG

主査 石井 聡
副主査 岡村 正典
副主査 安田 茂人
委員 金城 佑紀
(委員) (前原 健治)
委員 日向 哲朗
委員 草信 元春
委員 野口 聡
委員 森 隆
委員 中山 卓人
委員 兼松 亮
委員 野口 達朗

4.1.3 映像・記念史等WG

主査 坂田 聡
副主査 秦 健二
副主査 中原 法久
委員 島田 剛気
委員 鈴木 和也
委員 土田 淳也
委員 加藤 卓男
委員 千葉 力
委員 佐野 潤
委員 留田 裕司
委員 神田 銀平
委員 阿部 喜生

5. 技術委員会

委員長 西村 和夫
委員 日下 敦
委員 澤田 和也
委員 佐原 圭介
委員 中野 清人
委員 井料 青海
(委員) (齊藤 誠)
委員 中田 隆一
委員 清水 孝之
委員 後藤 隆之
委員 中村 誠喜
委員 青柳 隆浩
委員 手塚 仁
委員 平野 宏幸
委員 友野 雄士
委員 内藤 将史

5.1 共通技術小委員会

委員長 澤田 和也
委員 児玉 祐一
委員 日下 敦
委員 勘定 茂
委員 羽生田康雄
委員 一寸木朋也
委員 竹村 茂
委員 清水 孝之
委員 吉本 正浩
委員 河邊 信之
委員 平野 宏幸
委員 熊谷 幸樹
委員 大谷 達彦
委員 北澤 剛
幹事 三浦 貴幸

5.1.1 資機材検索リスト運営WG

主査 羽生田康雄
副主査 中田 隆一
幹事 越田 健
幹事 白井 隆裕
幹事 鈴木 康之
幹事 早川 文也

5.2 山岳工法小委員会

委員長 佐原 圭介
特別委員 上野 光
委員 日下 敦
委員 海瀬 忍
委員 水野光一朗
委員 佐々木建一
委員 野城 一栄
委員 河邊 信之
委員 後藤 隆之
委員 溝畑 陽一
委員 青柳 隆浩
委員 杉本 憲一
委員 草信 元春
委員 平野 宏幸
委員 友野 雄士
委員 熊谷 幸樹
委員 大谷 達彦
委員 末松 幸人
委員 水谷 和彦
委員 岡田 隆一

5.2.1 支保WG

主査 佐原 圭介
委員 佐野 和弥
委員 藤掛 佑基
(委員) (加藤 友祐)
委員 小澤 啓明
委員 稲葉 秀雄
委員 溝畑 陽一
委員 木野村有亮
委員 河村 巧
委員 藤原 浩一
委員 青木 宏一
委員 富澤 直樹
委員 大森 禎敏
委員 草信 元春
委員 安藤 拓
委員 山仲俊一朗
委員 川島 義和
委員 保広 将尚
(委員) (三浦 雅也)
委員 松岡 正博
委員 今村 新吾
委員 熊谷 幸樹
委員 鈴木 健
委員 山仲 徹
委員 三河内永康
委員 春田 克樹
委員 中込 正貴
委員 國村 省吾
委員 後藤 慶次

5.2.2 地山評価WG

主査 上野 光
顧問 木谷日出男
委員 太田 岳洋
委員 増田 弘明
委員 浅野 達也
委員 河村 祥一
委員 田中 姿郎
委員 奥澤 康一
委員 栗原 啓丞
委員 片山 政弘
委員 淡路 動太
委員 小島 萌
委員 小山 俊滉
委員 山下 雅之
委員 永井 誠二
委員 小熊 登

幹事 松長 剛
幹事 中谷 匡志
幹事 石濱 茂崇
幹事 高馬 崇

5.3 都市トンネル小委員会

委員長 清水 孝之
委員 玉井 達毅
委員 一寸木朋也
委員 吉井恭一朗
(委員) (小泉 秀之)
委員 猪野 祐一
委員 田村 基
委員 岡 滋晃
委員 武田 厚
委員 福居 雅也
委員 中川 雅由
委員 河越 勝
委員 松田 昌彦
委員 井櫻 潤示
委員 鈴木 高広
委員 久多羅木吉治
委員 島村 健司
委員 野本 康介
委員 片岡希誉司
委員 五十嵐英史

5.3.1 新技術WG

主査 中川 雅由
幹事 武田 厚
幹事 福居 雅也
幹事 松田 昌彦

5.3.2 改善WG

主査 河越 勝
幹事 井櫻 潤示
幹事 鈴木 高広
幹事 久多羅木吉治
幹事 島村 健司
幹事 野本 康介
幹事 片岡希誉司
幹事 五十嵐英史
幹事 名倉 浩
幹事 加藤 卓男
幹事 早川 淳一
幹事 天野 圭介
幹事 小川 智彦
幹事 中村 太三

幹事 加取 新
幹事 齊藤 一男

5.4 安全環境小委員会

委員長 中野 清人
委員 児玉 祐一
委員 森本 智
委員 東 好宣
委員 内田 雅洋
委員 吉川 直孝
委員 土屋 良直
委員 藤掛 佑基
(委員) (加藤 友祐)
委員 藤野 覚
委員 花輪 高史
委員 嶋本 敬介
委員 尾畑 洋
委員 草信 元春
委員 白井 隆裕
委員 浅野健一郎
委員 岡山 孝
委員 中原 法久
委員 尾花 敬治
委員 大野 義範
委員 小林 正治

5.4.1 肌落ち災害防止対策WG

主査 浅野健一郎
幹事 吉川 直孝
幹事 土屋 良直
幹事 尾畑 洋
幹事 草信 元春
幹事 白井 隆裕
幹事 尾花 敬治

5.4.2 自然由来重金属対策WG

主査 岡山 孝
幹事 藤掛 佑基
(幹事) (加藤 友祐)
幹事 中原 法久
幹事 大野 義範
幹事 小林 正治

5.5 保守管理小委員会

委員長 井料 青海
(委員長) (齊藤 誠)
幹事長 大澤 裕之
委員 児玉 祐一

委員 小泉 悠
委員 大津 敏郎
委員 永井 政伸
委員 新才 浩之
委員 杵山 義弘
(委員) (玉松潤一郎)
委員 竹村 茂
委員 田淵宗一郎
委員 佐々木建一
委員 野城 一栄
委員 永田 常雄
委員 北川 真也
委員 滝波 真澄
幹事 梶山 大貴
(幹事) (鈴木 和也)

5.6 技術変遷史編集小委員会

委員長 西村 和夫
副委員長 岩波 基
副委員長 小島 芳之
委員 日下 敦
委員 佐原 圭介
委員 金藤 和慶
委員 伊藤 聡
委員 青柳 隆浩
委員 名倉 浩

5.6.1 山岳工法編集WG

主査 小島 芳之
委員 澤田 和也
委員 増田 弘明
委員 佐々木建一
委員 谷口 翔
委員 久下 敦
委員 青柳 隆浩
委員 青木 宏一
委員 征矢 雅宏
委員 友野 雄士
委員 今村 新吾
委員 大谷 達彦
委員 今井 崇満

5.6.2 シールド工法編集WG

主査 岩波 基
副主査 名倉 浩
委員 飯塚 光洋
委員 齋藤 豊
委員 田村 基

委員
委員
委員
委員
委員
委員
委員
委員
委員

西森 昭博
江本 宏明
中川 雅由
河越 勝
青山 哲也
井櫻 潤示
田中 宏典
村上 初央
安光 立也

**6. 北海道新幹線 トンネル施工
技術委員会**

委員長 三上 隆
副委員長 朝倉 俊弘
(副委員長) (小山 幸則)
委員 大島 洋志
委員 東畑 郁生
委員 杉本 光隆
委員 川村 信人
委員 五十嵐敏文
委員 藤井 義明
委員 岸田 潔
委員 安原 英明
委員 太田 岳洋
委員 倉橋 稔幸
委員 大津 直
委員 北川 修三
委員 小西 真治
委員 浦越 拓野
(委員) (長谷川 淳)
委員 野城 一栄
委員 小西 康人
(委員) (進藤 州弘)
委員 保田 尚俊
オブザーバー 本田 肇
(オブザーバー) (林 華奈子)
協力者 弘中 知之
協力者 梶田 覚
協力者 吉岡 浩司
協力者 魚津 宗
協力者 玉井 達毅
協力者 井浦 智実
協力者 江島 武
協力者 山東 徹生
協力者 佐原 圭介
協力者 千代 啓三
協力者 柏木 亮
協力者 赤澤 正彦
協力者 上野 光
協力者 都築 保勇
協力者 山本 武史
協力者 本堂 亮
協力者 鈴木 隆
協力者 直江 久永
協力者 鳥井 宏之
協力者 西 真幸
協力者 磯谷 篤実
協力者 辻村 誠

協力者 若公 雅敏
協力者 河村 和信
協力者 吉田 匡伸
協力者 高野 裕輔
協力者 田中秀一郎
協力者 岡本 晋平
協力者 石井 秀和
協力者 小川 淳
協力者 久保 達彦
協力者 齋藤正一郎
協力者 吉野 弘明
協力者 古屋 元規
協力者 浦川 博臣
協力者 石井 秀和
協力者 佐々木翔太
協力者 高橋源太郎
協力者 北井 慶一
協力者 前田 龍一

**6.1 北海道新幹線 トンネル施
工技術委員会幹事会**

幹事長 岸田 潔
幹事 安原 英明
幹事 太田 岳洋
幹事 小西 真治
幹事 浦越 拓野
(幹事) (長谷川 淳)
幹事 野城 一栄
幹事 進藤 州弘
幹事 勝見 武
幹事 福田 大祐
幹事 保田 尚俊
幹事 菊本 統
幹事 川越 健
協力者 小野 顕司
協力者 吉岡 浩司
協力者 玉井 達毅
協力者 井浦 智実
協力者 柏木 亮
協力者 赤澤 正彦
協力者 上野 光
協力者 都築 保勇
協力者 山本 武史
協力者 磯谷 篤実
協力者 梶田 覚
協力者 江島 武
協力者 本堂 亮
協力者 鈴木 隆

協力者 井浦 智実
 協力者 直江 久永
 協力者 鳥井 宏之
 協力者 西 真幸
 協力者 辻村 誠
 協力者 若公 雅敏
 協力者 河村 和信
 協力者 吉田 匡伸
 協力者 高野 裕輔
 協力者 田中秀一郎
 協力者 岡本 晋平
 協力者 小川 淳
 協力者 久保 達彦
 協力者 齋藤正一郎
 協力者 吉野 弘明
 協力者 古屋 元規
 協力者 浦川 博臣
 協力者 石井 秀和
 協力者 佐々木翔太
 協力者 魚津 宗
 協力者 高橋源太郎
 協力者 北井 慶一
 協力者 前田 龍一
 協力者 秋吉 将史
 協力者 今林 泰史

6.2 北海道新幹線 トンネル施工技術委員会幹事会定例検討会

主査 岸田 潔
 幹事 安原 英明
 幹事 菊本 統
 幹事 保田 尚俊
 幹事 福田 大祐
 幹事 太田 岳洋
 幹事 小西 真治
 幹事 野城 一栄
 幹事 勝見 武
 (幹事) (嶋本 敬介)
 幹事 浦越 拓野
 (幹事) (長谷川 淳)
 幹事 川越 健

6.3 北海道新幹線、機械化施工小委員会

委員長 杉本 光隆
 (委員長) (小山 幸則)
 委員 中川 光弘
 委員 五十嵐敏文

委員 藤井 義明
 委員 勝見 武
 委員 岸田 潔
 委員 岩波 基
 委員 太田 岳洋
 委員 西尾 壮平
 (委員) (上原 元樹)
 委員 牛田 貴士
 委員 小西 真治
 委員 小西 康人
 (委員) (進藤 州弘)
 委員 野口 守
 委員 野々村政一
 委員 菊本 統
 委員 上澤 真平
 協力者 梶田 覚
 協力者 吉岡 浩司
 協力者 佐原 圭介
 協力者 千代 啓三
 協力者 玉井 達毅
 協力者 柏木 亮
 協力者 赤澤 正彦
 協力者 上野 光
 協力者 都築 保勇
 協力者 磯谷 篤実
 協力者 江島 武
 協力者 小川 淳
 協力者 久保 達彦
 協力者 齋藤正一郎
 協力者 魚津 宗
 協力者 北井 慶一
 協力者 前田 龍一

7. 中央アルプストンネル施工技術委員会

委員長 朝倉 俊弘
 (委員) (小山 幸則)
 委員 大島 洋志
 委員 西村 和夫
 委員 杉本 光隆
 委員 岸田 潔
 委員 小嶋 智
 委員 八嶋 厚
 委員 西垣 誠
 委員 太田 岳洋
 委員 常盤 哲也
 委員 菊本 統
 委員 海瀬 忍

委員 浦越 拓野
 委員 嶋本 敬介
 (委員) (長谷川 淳)
 オブザーバー 杉浦 禎信
 (オブザーバー) (古谷 佳久)
 オブザーバー 不破 崇博
 (オブザーバー) (梅村 哲男)
 協力者 竹津 英二
 (協力者) (上田日出男)
 協力者 奥原 祐治
 (協力者) (堀口 知巳)
 (協力者) (瓜生 良知)
 協力者 山崎 貴之
 協力者 三浦 貴幸
 協力者 田口 明勇
 (協力者) (山東 徹生)
 協力者 佐原 圭介
 協力者 千代 啓三
 協力者 山本 浩平
 協力者 古谷 聡
 (協力者) (奥原 祐治)
 協力者 平手 知
 (協力者) (黒瀬 信弘)
 協力者 西 恭彦
 (協力者) (末原 純)
 協力者 松本 浩司
 (協力者) (直江 久永)
 協力者 相澤 宏幸
 (協力者) (湊 敦之)
 (協力者) (跡部 拓己)
 (協力者) (福山 拓郎)

7.1 中央アルプストンネル施工技術委員会シールド小委員会

委員長 杉本 光隆
 (委員長) (小山 幸則)
 委員 西村 和夫
 委員 岸田 潔
 委員 津野 究
 協力者 三浦 貴幸
 協力者 玉井 達毅
 (協力者) (伊藤 浩)
 協力者 平手 知
 (協力者) (神田 大)
 協力者 西 恭彦
 (協力者) (黒瀬 信弘)
 協力者 松本 浩司
 (協力者) (末原 純)

協力者 竹之越 修久
(協力者) (直江 久永)
(協力者) (跡部 拓己)

7.2 中央アルプストーンネル施工 技術委員会ワーキング

委員長 朝倉 俊弘
(委員) (小山 幸則)
委員 大島 洋志
委員 岸田 潔
委員 小嶋 智
委員 西垣 誠
オブザーバー 高見健太郎
協力者 山崎 貴之
協力者 伊藤 浩
協力者 奥原 祐治
協力者 黒瀬 信弘
協力者 末原 純
協力者 直江 久永
協力者 湊 敦之
協力者 跡部 拓己
協力者 福山 拓郎

8. 効率的点検特別委員会

委員長 西村 和夫
副委員長 砂金 伸治
委員 石田 哲也
委員 森本 智
委員 藤田 一宏
委員 大津 敏郎
委員 海瀬 忍
委員 水野 希典
委員 山田 隆昭
委員 大澤 誠司
委員 八木 弘
委員 谷口 徹也
委員兼幹事長 松岡 茂
委員兼幹事 須藤 敏明
委員兼幹事 西脇 敬一
委員兼幹事 平間 昭信
委員兼幹事 望月 誠一
委員兼幹事 重田 佳幸
委員兼幹事 高橋 幸一
協力者 日下 寛彦
協力者 橋本 祐貴
(協力者) (原 遼平)
協力者 庭田 和弥
協力者 橋本 航征

協力者 前川 和彦
協力者 倭 大史
協力者 渡辺 泰弘
(協力者) (横塚 裕和)
協力者 前田 佳克
協力者 新藤 秀記
協力者 森園 洋臣
(協力者) (久保田 潤)
協力者 西川 祐平
事務局 小林 康範
事務局 金藤 和慶
事務局 鈴木 俊雄
事務局 酒井 大輔
事務局 平野 紘司
事務局 降旗 裕貴

9. 盤ぶくれ対策特別委員会

委員長 西村 和夫
副委員長 砂金 伸治
委員 蔣 宇静
委員 菊本 統
委員 菊地 浩貴
委員 上野 光
委員 嶋本 敬介
委員 藤田 一宏
委員 大津 敏郎
委員 清田 康明
委員 中野 清人
委員 海瀬 忍
委員 岩尾 哲也
委員 山田 隆昭
委員 八木 弘
委員 太田 裕之
協力者 日下 寛彦
協力者 橋本 祐貴
協力者 其田泰啓穰
協力者 前川 和彦
協力者 倭 大史
協力者 石田 誠
(協力者) (金田 遥)
協力者 蛭沢 佑紀
協力者 前田 佳克
協力者 新藤 秀記
協力者 下田 晃伸
協力者 飯田 浩貴
事務局 小林 康範
事務局 金藤 和慶
事務局 増田 弘明

事務局 藤掛 佑基
事務局 降旗 裕貴

10. 改築設計施工特別検討会

主査 鈴木 雅行
委員 板谷 裕次
委員 加藤 公章
委員 福田 毅
委員 須藤 敏明
委員 鈴木 雅之
委員 渡辺 章
委員 鈴木 健
委員 中込 正貴
協力者 日下 寛彦
協力者 橋本 祐貴
協力者 前川 和彦
協力者 倭 大史
協力者 前田 佳克
協力者 新藤 秀記
事務局 小林 康範
事務局 金藤 和慶
事務局 鈴木 俊雄
事務局 藤掛 佑基
事務局 平野 紘司

11. シールドトンネル設計施工 特別委員会

委員長 砂金 伸治
委員 牛田 貴士
委員 小泉 悠
委員 池田 浩基
委員 下田 哲史
委員 勘定 茂
委員兼幹事長 寺戸 秀和
委員兼幹事 河越 勝
委員兼幹事 井櫻 潤示
委員兼幹事 武田 厚
委員兼幹事 中川 雅由
委員兼幹事 江本 宏明
委員兼幹事 天野 圭介
委員兼幹事 宮澤 昌弘
(委員兼幹事) (秋月 勇人)
協力者 日下 寛彦
協力者 橋本 祐貴
協力者 前川 和彦
協力者 倭 大史
協力者 前田 佳克
(協力者) (水野 希典)

協力者 新藤 秀記
 事務局 小林 康範
 事務局 金藤 和慶
 事務局 増田 弘明
 事務局 平野 紘司
 (事務局) (酒井 大輔)
 事務局 降籟 裕貴

**12. 矢上川地下調節池 施工技術
 検討会**

委員長 砂金 伸治
 (委員長) (小山 幸則)
 委員 岩波 基
 委員 菊本 統
 委員 崔 瑛
 委員 真下 英人
 事務局 大曾根信一
 (事務局) (中丸 博史)
 事務局 堀 大佑
 (事務局) (黒崎 克彦)
 事務局 菊池 勝吉
 事務局 中野 優
 事務局 奥津 雄治
 (事務局) (清水 讓)
 事務局 曾根 龍太
 事務局 新山 雅紀
 (事務局) (原 貴史)
 事務局 古野 貴史
 事務局 亀山 千佳

**13. 7号線品川～白金高輪間大
 深度地下使用に関する検討委
 員会**

委員長 小泉 淳
 (副委員長) (小山 幸則)
 委員 赤木 寛一
 委員 西垣 誠
 委員 神田 政幸
 事務局 大石 敬司
 事務局 白子 慎介
 (事務局) (伊藤 聡)
 事務局 吉村 正
 (事務局) (白子 慎介)
 事務局 吉村 敬
 (事務局) (鈴木 章悦)
 事務局 大塚 努

事務局 橋口 弘明
 事務局 佐々木孝太
 (事務局) (根本 早季)
 事務局 岡ノ谷圭亮

**14. 相模鉄道本線(鶴ヶ峰駅付
 近)連続立体交差事業トンネル
 施工検討委員会**

委員長 小西 真治
 (委員長) (小山 幸則)
 委員 崔 瑛
 委員 白子 慎介
 (委員) (伊藤 聡)
 (委員) (岩波 基)
 (委員) (菊本 統)
 委員 川島陽二郎
 (委員) (相崎 哲成)
 オブザーバー 樽川 正弘
 (オブザーバー) (栗本 高史)
 (オブザーバー) (古瀬 円)
 幹事長 松浦 史朗
 (幹事長) (鈴木 知徳)
 幹事 上田 武彦
 幹事 鎌倉 友之
 幹事 立野 博之
 (幹事) (出浦 利彦)
 幹事 濱 新司
 オブザーバー 土村 浩二
 オブザーバー 小川 靖弘
 オブザーバー 和田 卓也
 (オブザーバー) (根本 進平)
 事務局 及川 大輔
 (事務局) (飯田 孝治)
 事務局 水野 高希
 (事務局) (高木 信一)
 事務局 松田 隆志
 事務局 吉岡 拓也
 事務局 原 匡利
 事務局 木内 蔵
 (事務局) (漆原 芳弘)
 事務局 岡 南波
 (事務局) (榎本 崇)
 事務局 山西 雄大
 (事務局) (熊谷 憲二)
 事務局 沼澤憲二郎

**15. 西武鉄道新宿線(中井駅～野
 方駅間)連続立体交差事業技術
 検討委員会**

委員長 小泉 淳
 (委員長) (小山 幸則)
 委員 大石 敬司
 委員 松島 進
 (委員) (久野健一郎)
 委員 香月 高広
 (委員) (安田 智)
 委員 角 秀行
 委員 長田裕太郎
 (委員) (陰山 健司)
 (事務局) (加藤 孝志)
 事務局 小原 広
 (事務局) (山口 竜)
 (事務局) (天野 清和)
 (事務局) (近江 淳一)
 事務局 山内 悠司
 (事務局) (山崎 健二)
 (事務局) (堀田 竜生)
 事務局 戸田 丈
 (事務局) (佐藤賢太郎)
 (事務局) (関川 正彦)
 (事務局) (石井 勇希)
 事務局 井戸 明
 事務局 渋谷 卓司
 事務局 藤井 和之
 (事務局) (小林 豊)
 事務局 廣瀬 裕也
 (事務局) (廣瀬 裕也)
 事務局 河原 吉秀
 (事務局) (渡辺夕布子)
 事務局 栗田 樹
 (事務局) (小澤 史周)
 (事務局) (生駒 学)
 (事務局) (東 伸一)
 (事務局) (建川 和也)

4. 運営・広報事業の概要

総務委員会委員長 千田 洋一

本会の事業の運営方針や広報活動について全体調整を行うとともに、企画運営幹事会及び広報小委員会において、具体的な実施方策を検討した。また、国内外からの技術協力や協賛・後援依頼について検討した。

- ①令和7年度事業報告、決算及び令和8年度事業計画、予算案を検討した。
- ②令和元年度に策定した JTA ビジョンを踏まえ、事業の実施のための具体策を検討した。
- ③本会の設立 50 周年を記念して、設立日の 8 月 1 日を「トンネルの日」に定めた。
- ④表彰制度の拡充について検討し、表彰規程を改定し、新たに「トンネル施工等優秀技術者賞」を設けた。

(1) 企画運営幹事会

幹事長 澤田 和也

- ⑤研究助成、JTA 表彰等の事業の実施について検討した。
- ⑥会員に対する情報発信機能を強化するため、会員限定情報への「アクセスライセンス制度」を設けて運用を開始するとともに、学生への情報発信を充実させるため「JTA クラブ」制度を設けた。

(2) 広報小委員会

委員長 三浦 孝智

- ⑦会員及びメールマガジン登録者に、メールマガジンによりイベント情報等の積極的な情報発信を行うとともに、SNS（X（旧 Twitter））を活用した情報発信を実施した。なお、メールマガジンの読者に対する満足度調査を実施中である。
- ⑧ウェブサイト及び会誌「トンネルと地下」等により、広報活動の充実に努めた。
- ⑨各種委員会の研究成果である貴重な技術情報の活用を図るため、頒布図書資料の広報活動に努めた。

5. 国際関係事業の概要

国際委員会委員長 今井 智満

ITA 活動等への参加などを通じて、トンネル技術に関する各国の情報収集、わが国からの情報発信及び国際協力に努めた。

(1) ITA 小委員会

委員長 砂金 伸治

- ①ITA を通じてわが国のトンネル技術情報を積極的に発信するとともに、各種作業部会（WG）に参加するなど ITA の場の活用に努めた。
- ②2025 年 5 月に開催された第 51 回 ITA 総会（スウェーデン・ストックホルム）に参加し、わが国のトンネル技術情報を積極的に発信するとともに、作業部会（WG）で活動した。また、同時に開催された WTC2025 において、団体会員 14 社と共同で技術展示を実施し、トンネル技術に関する情報交換を積極的に行った。会誌 2025 年 10 月号でその結果を報告した。
- ③2026 年 5 月に開催される第 52 回 ITA 総会・WTC2026（カナダ・モンリオール）への対応方針について検討した。
- ④わが国のトンネル技術の存在感や影響力を国際的に高めるため開催を誘致した ITA 理事会を、2025 年 12 月にわが国で行うとともに、それに合わせて国際トンネル技術特別講演会「世界から見たトンネルの現状と最近の話題」を開催した。会誌 2026 年 3 月号で講演会

の概要を報告した。

(2) 海外情報小委員会

委員長 福井 勝則

- ⑤トンネル技術に関する海外の雑誌のニュースおよび記事を抽出、翻訳して会誌に掲載した。
- ⑥わが国のトンネル技術を積極的に世界に発信するため、「Tunnelling Activities in Japan 2026」の編集作業を開始した。
- ⑦海外に向けた情報発信を強化するため、引き続き英文ウェブサイトの充実に努めた。

頒布図書一覧

令和7年度は、これまでの研究成果を主とした下記図書資料 142 部 を頒布した。

刊行年度	図書番号	図 書 名	頒布部数	残部数
1985	6008	トンネル工事の安全－NATM編－	0	51
1990	90001	大深度地下利用技術（邦文）	0	8
	90002	大深度地下利用技術（英文）	0	7
1992	92006	トンネル工事の安全－斜坑・立坑編－	0	30
1998	98003	トンネル工事の安全－山岳トンネル機械掘削編－	0	2
1999	99001	トンネル工事の安全－山岳発破作業編－	0	3
2000	200010	大深度地下利用技術調査小委員会報告書－テキスト－	0	25
	200011	大深度地下利用技術調査小委員会報告書－モデル検討－	0	49
2001	200104	電力用立坑の性能照査型設計手引	0	13
2002	200105	覆工コンクリート施工の手引き	2	61
	200207	SUS9 国際会議	0	20
2003	200303	性能照査型ガイドライン講習会	2	25
2005	200508	トンネル技術白書－山岳トンネル施工技術の現況と変遷－	2	94
2015	201504	都市部近接施工ガイドライン	33	71
	201505	設立40周年記念事業「シールド技術変遷史」	2	113
2018	201805	山岳トンネル工事に係るセーフティ・アセスメントに関する指針・同解説	0	200
	201806	シールド工事に係るセーフティ・アセスメントに関する指針・同解説	4	257
2020	202001	トンネル年報 2020	0	222
	202005	トンネル管理技術者のための維持管理に関するQ&A	61	155
2021	202101	トンネル年報 2021	0	244
2022	202201	トンネル年報 2022	0	8
	202202	山岳トンネル工法における防水工指針（改訂版）	15	258
2023	202301	トンネル年報 2023	0	0
2024	202401	トンネル年報 2024	2	89
2025	202501	トンネル年報 2025	19	65
合 計 25件			142	2,070

6. 催物事業の概要

事業委員会委員長 入江 健二

当面する技術課題を踏まえた各種催物を企画・開催し、トンネル関係の人材育成のための機会や情報を提供するとともに、トンネル関係者の実務上有益な知識の向上を図った。なお、令和7年度は設立50周年記念事業と調整しながら実施した。

① 現場研修会

国内の各種トンネル工事現場での研修会（見学会）を計画的に実施し、5回開催した。

② 施工体験発表会

第96回施工体験発表会（山岳トンネル部門）は、「様々な課題にチャレンジした山岳トンネルの建設およびトンネルリニューアル工事－創意工夫・生産性・安全性向上、働き方改革－」を、第97回施工体験発表会（都市トンネル部門）は、「輻輳した市街地でのトンネル・地下構造物の新設・改造－デジタル技術の活用、環境配慮、支障物処理－」を課題として、10月7日（火）、8日（水）に、会場とリモート参加を併用したハイブリッド形式で開催した。

③ 講習会

「山岳トンネル維持管理業務講習会（基礎編）」を12月16日（火）に、「山岳トンネル維持管理業務講習会（実践編）」を令和8年1月30日（金）に、各々、会場とリモート併用のハイブリッド型で開催した。

④ トンネル技術ステップアップ研修会

トンネル実務経験の少ない中堅技術者を対象として、シールド部門と山岳部門のそれぞれを企画した。令和8年度上半期に開催する予定である。

令和7年度各種催物開催実績

催物名	開催日	参加者数	開催場所	CPD取得単位
(現場研修会)				
一級河川寝屋川加納元町調整池築造工事	2025. 5.29	15	大阪	2.0
霞ヶ浦導水石岡トンネル(第5工区)工事	2025. 6.20	19	茨城	2.0
北海道新幹線後志トンネル工事(天神工区)	2025. 9.24	9	北海道	2.5
広島呉道路小屋浦トンネル・天応トンネル工事	2025.11.20	10	広島	2.4
新山科浄水場導水トンネル工事	2026. 2. 5	14	京都	2.0
(施工体験発表会)				
第96回(山岳)「様々な課題にチャレンジした山岳トンネルの建設およびトンネルリニューアル工事－創意工夫・生産性・安全性向上、働き方改革－」	2025.10.7	140	東京 ハイブリッド	5.4
第97回(都市)「輻輳した市街地でのトンネル・地下構造物の新設・改造－デジタル技術の活用、環境配慮、支障物処理－」	2025.10.8	86	東京 ハイブリッド	3.0
(講習会・研修会)				
山岳トンネル維持管理業務講習会(基礎編)	2025.12. 6	14	東京 (会場参加)	6.2
		37	リモート	
山岳トンネル維持管理業務講習会(実践編)	2026. 1.30	18	東京 (会場参加)	6.0
		32	リモート	

注1；ハイブリッドとは、会場とリモート参加の併用形式。

注2；設立50周年記念事業関係の催物は、「8. 設立50周年記念事業の実施概要」を参照。

令和7年度施工体験発表会 優秀発表者

第96回（山岳）ならびに第97回（都市）施工体験発表会に係る発表者の表彰について審査した結果、下記のとおりとなった（最優秀賞の論文は会誌2026年6月号に掲載）。

第96回（山岳）施工体験発表会

開催テーマ 様々な課題にチャレンジした山岳トンネルの建設およびトンネルリニューアル工事 - 創意工夫、生産性・安全性向上、働き方改革 -

開催日 令和7年10月7日（火）

開催場所 機械振興会館（リモート併用開催）

発表者 16名

<最優秀賞>

受賞者 鈴木 拓也（株）大林組

発表論文 小土かぶり・未固結砂質地山のトンネル施工における流砂現象防止対策の実施
— 首都圏中央連絡自動車道 芝山トンネル —

<優秀賞>

受賞者 女賀 崇司 鹿島建設（株）

発表論文 トンネル掘削自動化施工技術の実証
— 神岡試験坑道掘削工事 —

<優秀賞>

受賞者 戸田 皓（株）安藤・間

発表論文 令和6年能登半島地震により被災した供用中トンネルの復旧
— 国道249号中屋トンネル —

第97回（都市）施工体験発表会

開催テーマ 輻輳した市街地でのトンネル・地下構造物の新設・改造
— デジタル技術の活用、環境配慮、支障物処理 —

開催日 令和7年10月8日（水）

開催場所 機械振興会館（リモート併用開催）

発表者 9名

<最優秀賞>

受賞者 柿永 恭佑（株）奥村組

発表論文 都心部における超長距離・大深度シールド施工
— 千代田幹線工事，千代田幹線その2工事 —

<優秀賞>

受賞者 岩上 進也 鹿島建設（株）

発表論文 既設構造物に近接した大深度立坑掘削の施工実績
— 東京外環自動車道 京葉ジャンクションBランプ工事 —

7. 調査研究事業の概要

調査研究事業では、自主研究と受託（請負等）研究を実施した。自主研究では、技術委員会のもと、トンネルや地下空間の建設及び維持管理に関する当面の課題や会員のニーズに応えることに力を置き、調査研究の実施に努めた。また、受託（請負等）研究では、6機関から10件の技術調査検討業務を受託（請負等）し、学識経験者からなる特別委員会等を設置・検討して成果を取りまとめ、委託者（発注者）の要望に応えた（受託業務一覧表：26頁参照）。委員会毎の主な活動の内容は、以下のとおりである。

(1) 技術委員会

委員長 西村 和夫

今日的な課題や会員のニーズを把握するため情報収集に努め、その結果を調査研究に反映するとともに、多様な分野の会員の参画を求めて活動を実施した。各小委員会の活動概要は、以下のとおりである。

1) 共通技術小委員会

委員長 澤田 和也

①ウェブサイトの資材機械検索リストの内容の充実を図るため、更新作業を継続実施した。

2) 山岳工法小委員会

委員長 佐原 圭介

②掘削・支保工作業の生産性向上・自動化に関わる問題点と解決策について、意見交換、情報収集を実施した。また、その成果を会誌の報告として取りまとめを実施した。

③「トンネル地質図の見方」について課題の抽出・整理や検討を実施した。また、「トンネル技術者のための地質図の見方」の手引き（仮称）に関するウェブアンケート調査を実施した。

3) 都市トンネル小委員会

委員長 清水 孝之

④シールド工事における新技術について、本会ウェブサイト上に技術情報検索ツールを作成し、会員を対象に情報を提供中であり、今後、一般公開を予定する。

⑤シールド工事のトラブル事例について、想定を含むトラブル事例集の作成作業を実施した。今後、関連資料を取りまとめ、講習会を開催するなど、会員に情報を提供する予定である。

4) 安全環境小委員会

委員長 中野 清人

⑥肌落ち災害防止対策について、対策事例アンケート調査結果の取りまとめを実施した。今後、本会ウェブサイトより、会員へ情報提供を行う予定である。

⑦自然由来の重金属を含むトンネルのずり処理対策に関する事例調査結果の取りまとめを実施した。今後、本会ウェブサイトより、会員へ情報提供を行う予定である。

5) 保守管理小委員会

委員長 井料 青海

⑧山岳トンネル維持管理業務講習会の基礎編および実践編について、これまでのアンケート結果等を踏まえて見直し、維持管理に携わる技術者育成の一助となるように企画し、リモート併用形式により、基礎編を令和7年12月に、実践編を令和8年1月に開催した。

⑨トンネル点検の新技术に関する情報交換を行うとともに、その内容を「トンネル維持管理に関する最近の取組事例」として整理し、会員に情報提供した。

⑩維持管理業務の重要性を鑑み、設立50周年記念事業として、保守管理特別講演会—トンネルの維持管理の現状と最近の話題—を企画し、10月に実施した。その講演概要は、会誌2026年2月号に掲載した。

6) 技術変遷史編集小委員会

委員長 西村 和夫

⑪トンネル技術の変遷史を取りまとめるために、「山岳工法変遷史編集ワーキング」と「シールド工法変遷史編集ワーキング」を設置し、過去に取りまとめた変遷史を参考として、1~2年を目途に編纂に着手した。

(2) 受託研究特別委員会（特別委員会）

6機関から10件の技術課題を受託（請負等）し、学識経験者からなる特別委員会等を設置し、委託者（発注者）の要望に応えるよう検討・実施した。

1) 北海道新幹線、新函館北斗・札幌間トンネル施工技術委員会

委員長 三上 隆

（独）鉄道・運輸機構北海道新幹線建設局から「北海道新幹線、トンネル設計施工の研究」業務（R5業務、R7業務）を受け、実施した。

2) 中央アルプストンネル施工技術委員会

委員長 朝倉 俊弘

（独）鉄道・運輸機構関東甲信工事局から「トンネルの設計・施工に関する技術的検討」業務（3業務、4業務）を受け、実施した。

3) 効率的点検特別委員会

委員長 西村 和夫

（株）高速道路総合技術研究所から「覆工コンクリートの効率的な点検に関する基礎資料作成」業務（令和7年度業務）を受け、実施した。

4) 盤ぶくれ対策特別委員会

委員長 西村 和夫

（株）高速道路総合技術研究所から「盤ぶくれ対策工法に関する技術資料作成」業務（令和6年度業務、令和7年度業務）を受け、実施した。

5) 改築設計施工技術特別検討会

主査 鈴木 雅行

（株）高速道路総合技術研究所から「トンネル改築の設計施工技術に関する研究」業務（令和6年度業務、令和7年度業務）を受け、実施した。

6) シールドトンネル設計施工特別委員会

委員長 砂金 伸治

（株）高速道路総合技術研究所から「シールドトンネル設計施工技術に関する研究」業務（令和6年度業務）を受け実施した。

7) 矢上川地下調節池施工技術検討会

委員長 砂金 伸治

神奈川県横浜川崎治水事務所川崎治水センターから「令和7年度河川改修工事 県単（その4）及び（その13）矢上川地下調整池施工技術検討会運営及び調整業務」を受け、実施した。

8) 7号線品川～白金高輪間大深度地下使用に関する検討委員会

委員長 小泉 淳

東京地下鉄（株）から「7号線品川～白金高輪間大深度地下使用に関する検討委員会に伴う検討（2025年度）業務」を受け、実施した。

9) 西武鉄道新宿線（中井駅～野方駅間）連続立体交差事業シールドトンネル技術検討委員会

委員長 小泉 淳

西武鉄道（株）から「新宿線中井～野方駅間連続立体交差事業に伴うシールド工事技術検討委員会運營業務」を受け、実施した。

10) 相模鉄道本線（鶴ヶ島駅付近）連続立体交差事業に伴うトンネル施工検討委員会

委員長 小西 真治

相模鉄道（株）から「相模鉄道本線（鶴ヶ島駅付近）連続立体交差事業に伴うトンネル施工検討委員会運營業務」を受け実施した。

令和7年度受託業務契約一覧

(契約額単位：円、税込)

No	委託者	委託件名	契約額	工期	摘要
1	(独)鉄道・運輸機構 北海道新幹線建設局	北海道新幹線、トンネル設計施工の研究R5	2,585,000	R5.12.26 ~R8.6.25	複数年契約
2	(独)鉄道・運輸機構 北海道新幹線建設局	北海道新幹線、トンネル設計施工の研究R7	(契約済)	R8.1.22 ~R10.6.21	複数年契約
3	(独)鉄道・運輸機構 関東甲信工事事務局	トンネルの設計・施工に関する技術検討3	2,805,000	R4.4.1 ~R7.6.30	複数年契約
4	(独)鉄道・運輸機構 関東甲信工事事務局	トンネルの設計・施工に関する技術検討4	6,501,000	R7.6.4 ~R10.7.3	複数年契約
5	(株)高速道路総合技術研究所	令和7年度覆工コンクリートの効率的な点検に関する基礎資料作成	(契約済)	R7.4.11 ~R8.4.5	複数年契約 (完成払)
6	(株)高速道路総合技術研究所	令和6年度盤ぶくれ対策工法に関する技術資料作成	42,284,000	R6.8.24 ~R7.7.19	複数年契約
7	(株)高速道路総合技術研究所	令和7年度盤ぶくれ対策工法に関する技術資料作成	(契約済)	R7.8.23 ~R8.7.18	複数年契約 (完成払)
8	(株)高速道路総合技術研究所	令和6年度トンネル改築の設計施工技術に関する技術資料作成	18,128,000	R6.7.6 ~R7.5.1	複数年契約
9	(株)高速道路総合技術研究所	令和7年度トンネル改築の設計施工技術に関する技術資料作成	(契約済)	R7.6.28 ~R8.4.23	複数年契約 (完成払)
10	(株)高速道路総合技術研究所	令和6年度シールドトンネルの設計施工技術に関する基礎資料作成	24,035,000	R6.8.30 ~R7.10.23	複数年契約
11	神奈川県横浜川崎治水事務所 川崎治水センター	令和7年度河川改修工事 県単(その4) 矢上川地下調整池施工技術検討会運営及び調整業務	627,000	R7.4.24 ~R7.10.31	
12	神奈川県横浜川崎治水事務所 川崎治水センター	令和7年度河川改修工事 県単(その13) 矢上川地下調整池施工技術検討会運営及び調整業務	935,000	R7.10.16 ~R8.3.31	
13	西武鉄道(株)	新宿線中井~野方駅間連続立体交差事業に伴うシールド工事技術検討委員会運営業務	253,000	H30.7.12~	複数年契約
14	相模鉄道(株)	相模鉄道本線(鶴ヶ峰駅付近)連続立体交差事業に伴うトンネル施工検討委員会運営業務	1,210,000	R4.11.24 ~R9.3.31	複数年契約
15	東京地下鉄(株)	7号線品川~白金高輪間大深度地下使用に関する検討委員会に伴う検討(2025年度)業務	2,046,000	R7.11.4 ~R8.3.10	
令和7年度会計合計			101,409,000 (10件)		

次年度以降会計契約額

No	委託者	委託件名	R8(2026)年度以降契約額	摘要	摘要
1	(独)鉄道・運輸機構 北海道新幹線建設局	北海道新幹線、トンネル設計施工の研究R5	29,821,000	R5.12.26 ~R8.6.25	継続 (契約額 54,978,000円)
2	(独)鉄道・運輸機構 北海道新幹線建設局	北海道新幹線、トンネル設計施工の研究R7	69,366,000	R8.1.22 ~R10.6.21	継続 (契約額 69,366,000円)
4	(独)鉄道・運輸機構 関東甲信工事事務局	トンネルの設計・施工に関する技術検討4	44,572,000	R7.6.4 ~R10.7.3	継続 (契約額 51,073,000円)
5	(株)高速道路総合技術研究所	令和7年度覆工コンクリートの効率的な点検に関する基礎資料作成	28,270,000	R7.4.11 ~R8.4.5	継続
7	(株)高速道路総合技術研究所	令和7年度盤ぶくれ対策工法に関する技術資料作成	30,305,000	R7.8.23 ~R8.7.18	継続
9	(株)高速道路総合技術研究所	令和7年度トンネル改築の設計施工技術に関する技術資料作成	16,621,000	R7.6.28 ~R8.4.23	継続
13	西武鉄道(株)	新宿線中井~野方駅間連続立体交差事業に伴うシールド工事技術検討委員会運営業務	220,000	H30.7.12~	継続 (契約額 5,430,000円)
14	相模鉄道(株)	相模鉄道本線(鶴ヶ峰駅付近)連続立体交差事業に伴うトンネル施工検討委員会運営業務	957,000	R4.11.24 ~R9.3.31	継続 (契約額 5,973,000円)
合計			220,132,000		

8. 設立 50 周年記念事業の実施概要

設立 50 周年記念実行委員会委員長 千田 洋一

一般社団法人日本トンネル技術協会は、令和 7 年度（2025 年度）に設立 50 周年を迎えたことから、設立 50 周年記念実行委員会に幹事会及び 3 つの WG（催物企画等 WG、作品展示等 WG、映像・記念史等 WG）を設けて検討を行い、記念事業を実施した。

① 実施目的

日本トンネル技術協会は、トンネル及び地下空間の建設並びにこれらの維持管理に関する調査研究を行い、地下利用技術の進歩向上を図ることによって、国土の保全と公共の福祉の増進に寄与することを目的に、1975 年（昭和 50 年）8 月に設立され、2025 年（令和 7 年）8 月をもって設立 50 周年を迎えた。国民生活の安全向上、経済活動に不可欠なトンネル・地下空間に対する意識を高め、トンネル・地下空間や本会の活動の理解向上の一助とするため、各種の記念事業を実施した。

② メインテーマ

設立 50 周年記念事業の実施に当たって、「社会を支え、未来へつなぐトンネル・地下空間」をメインテーマとした。

③ 実施した記念事業

メインテーマのもとに、各種の記念事業を企画、実施した。

実施した記念事業は、特別講演会、フォトコンテスト、トンネル利用のアイデアコンテスト、親子見学会、トンネルに関する技術展示会等の他、映像ライブラリーの整備、会誌記念号、JTA の 50 年のあゆみの発行等である。その実施概要は下表のとおり。

設立 50 周年記念事業の実施概要

記念事業	実施概要	摘要
フォトコンテスト	募集期間 令和6年7月1日～12月15日 表彰式、写真集作成 「トンネル・地下空間展」で受賞作品を展示	応募作品数:928(一般部門882、関係者部門46) 表彰者:一般部門:最優秀賞1名、優秀賞2名、会長賞1名、入賞10名、関係者部門:最優秀賞1名、優秀賞2名、会長賞1名
トンネル利用のアイデアコンテスト	募集期間 令和6年7月1日～令和7年1月31日 小・中学生等を対象に実施 作品集作成 「トンネル・地下空間展」で受賞作品を展示	応募作品数:197 表彰者:最優秀賞1名、優秀賞2名、努力賞52名
特別講演会	令和7年6月9日(月) 15～16時 場所:都市センターホテル 講師:春山 純一氏 (JAXA) 演目:「月の地下のトンネル」	参加者:195名 〔会場:149名 リモート:46名〕

記念事業	実施概要	摘要
トンネル・地下空間展	令和7年8月2日(土)～8日(金) 新宿駅西口広場イベントコーナー 主な展示物 展示パネル(トンネルの作り方他)、VR(3Dゴーグル)を使った施工体験、トンネル技術の映像紹介(映写会)、シールドマシン等の模型展示	もぐらクイズ回答者:1,527名(期間合計) 全エリア約2,200名(参考)
親子見学会	新名神高速道路 宇治田原トンネル 令和7年7月29日(火)	参加者:親子8組17名
	横浜環状南線 釜利谷庄戸トンネル 令和7年8月5日(火)	参加者:親子10組20名
関係者見学会	青函トンネル 令和7年8月22日(金)	参加者:20名
	アクアトンネル 令和7年10月2日(木)	参加者:19名
トンネル保守管理特別講演会	令和7年10月15日(水) 13～17時 場所:機械振興会館 演題:維持管理の現状と最近の話題	基調講演:1名、パネルディスカッション:7名 参加者:251名 会場:95名、リモート:156名 会誌2026年2月号に報告を掲載
国際トンネル技術特別講演会	令和7年12月4日(木)14～17時 場所:都市センターホテル 演題:国際トンネル技術特別講演会－世界から見たトンネルの現状と最近の話題－	講演者:海外4名、国内2名 参加者:国内108名、海外12名 会誌2026年3月号に報告を掲載
協会誌設立50周年記念号	「トンネルと地下」2025年8月号 令和7年8月1日発行	主な掲載記事: 祝辞、特別講演、座談会、主要プロジェクトの現況と課題、コンテストの結果等
トンネル技術協会50年のあゆみ	令和7年8月1日発刊	40年のあゆみの補遺版として編集 ウェブサイトに併せて参考資料を掲載
山岳・シールド工法技術変遷史	技術委員会傘下に小委員会及びWGを設置して令和7年度から編纂	令和7～8年度の2か年程度の期間を見込む
「トンネルの日」の制定	設立50周年を記念し、本会の設立日の8月1日を「トンネルの日」に制定	令和7年度定時総会、トンネル・地下空間展等で公表

④ 設立50周年記念事業決算

事業	令和6年度 決算額	令和7年度 決算額	合計	摘要
設立50周年記念事業費	3,448千円	17,066千円	20,514千円	全体予算額 20,000千円

注1: 記念事業の実施に要した事業費のみで、実行委員会、幹事会、WGの活動に伴う旅費交通費、会議費等は含まない。

注2: 事業の実施に伴う参加者負担金による収益が、別途603千円ある。

9. JTA表彰の選考概要

本会は、令和元年度に策定した「JTA ビジョン」を踏まえ、令和3年度に「表彰制度」を設け、トンネル技術の発展に特に顕著な功績があったと認められる会員等に「功績賞」を、本会の発展に特別の功労のあった会員等に「功労賞」を授与している。また令和8年度からは新たに「トンネル施工等優秀技術者賞」を設け、表彰することとした。

令和7年11月13日から令和8年1月30日までの期間、令和8年度表彰の推薦を受け付けたところ、功績賞2名、功労賞1名、トンネル施工等優秀技術者賞4名の推薦があった。

推薦内容に関して、本会理事会で慎重に選考を行った結果、推薦のあった功績賞2名、功労賞1名、トンネル施工等優秀技術者賞4名の受賞者を決定した。

受賞者は、本会定時総会（令和8年6月4日（木）開催）において表彰する。

令和8年度受賞者

功績賞 2名

(敬称略)

受賞者名	功績概要
朝倉 俊弘	長年にわたりトンネルに関する研究に取り組み、技術の普及やトンネルの研究者・技術者の育成に努め、プロジェクトの推進と完成に尽力するなど、トンネル工学の発展に大きく寄与した。
山田 隆昭	長年にわたり高速道路トンネルの設計・施工技術の発展に尽力し、多くの標準化や技術革新を主導するとともに、点検・リニューアル指針の策定や委員会活動を通じトンネル技術の発展に大きく寄与した。

功労賞 1名

受賞者名	功績概要
入江 健二	長年にわたり協会活動に参画するとともに、評議員、監事、事業委員会委員長を歴任し、協会の事業発展に大きく寄与した。

トンネル施工等優秀技術者賞 4名

受賞者名	功績概要
西川 幸一 鹿島建設(株)	山岳トンネルの施工分野において、特に優秀な技術を有すると認められる。
米沢 実 鹿島建設(株)	シールドトンネルの施工分野において、特に優秀な技術を有すると認められる。
木村 厚之 清水建設(株)	山岳トンネルの施工分野において、特に優秀な技術を有すると認められる。
村上 正一 (株)大林組	山岳トンネルの施工分野において、特に優秀な技術を有すると認められる。

10. 研究助成の選考概要

本会は、令和元年度に策定した「JTA ビジョン」を踏まえ、令和3年度に「研究助成制度」を設け、トンネル・地下空間の建設及び維持管理に資する技術開発又は研究に対して、研究助成部門と研究奨励部門（40歳未満の若手研究者対象）の2部門で研究助成を実施している。

研究助成部門の助成額は1件につき単年度100万円以下、研究奨励部門の助成額は1件につき単年度20万円以下で、助成対象者は本会の個人会員であって、大学、高等専門学校及びこれらの附属機関に属する研究者としている。

令和7年9月1日から同年11月28日までの期間、令和8年度に助成する研究・技術開発を募集したところ、新規・継続合わせて6件の応募があった。申請内容に関して、本会に設けた研究助成審査委員会（千田洋一委員長）で、①研究の新規性・独自性、②研究計画の妥当性、③トンネル等事業への貢献度、④研究の進捗状況（継続案件のみ）の3（又は4）項目の評価を行い、今般、6件全ての採択を決定した（下表-1のとおり）。

なお、研究計画が複数年にわたるものについては、毎年度、申請受付手続きを行い、再度審査するものとしている。

また、令和5年度までに研究助成が終了した3件については、本会のウェブサイトで研究成果を公表している（下表-2のとおり）。

表-1 令和8年度助成研究

部 門	助成研究テーマ	研究者	助成額	実施期間
研究助成部門 4件	ロックボルトの材質と定着材を考慮した力学的特性に関する研究（継続）	河田 皓介 （東京都立大学）	100万円	令和7～9年度
	トンネル埋め込み型光ファイバを用いた経時的ひずみの把握（新規）	鋤田 泰子 （神戸大学）	100万円	令和8～9年度
	FE解析と深層学習を統合したトンネル変位の高精度計測・推定技術の開発（新規）	随 海通 （名古屋大学）	100万円	令和8年度
	変状を生じたトンネルの構造安定性の簡易評価手法に関する研究（新規）	砂金 伸治 （東京都立大学）	100万円	令和8～9年度
研究奨励部門 2件	トンネルの担い手確保・育成のための切羽観察VRシステムの構築（継続）	岡崎 泰幸 （広島工業大学）	20万円	令和6～8年度
	地震時挙動を考慮した補助工法の合理的設計指標の構築に関する研究（新規）	田村 夏海 （東京都立大学）	20万円	令和8～10年度

表-2 研究成果を公表している助成研究

部 門	研究テーマ	研究者	研究助成期間
研究助成部門	支保的インバートの力学的メカニズムと設計指標に関する研究	砂金 伸治 （東京都立大学）	令和3～4年度
	既設トンネルのつらら対策業務の低減に資する研究	林 久資 （西日本工業大学）	令和3～5年度
研究奨励部門	地山物性の空間的な不均質性を考慮した山岳トンネル切羽の安定性評価	岡崎 泰幸 （広島工業大学）	令和3～5年度